

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和5年度第4回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和6年2月26日(月) 午後1時30分から午後2時55分まで
- 3 開催場所 水戸市役所4階 中会議室1～3
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 金本 節子, 大野 覚, 渡辺 賢治, 谷萩 美智子, 大竹 隆志
鹿倉 よし江, 小島 幸子
 - (2) 執行機関 【市民生活課】 参事兼課長 白石 嘉亮
副参事兼課長補佐 入野 高司
協働係長 橋崎 真哉, 主事 松川 のぞみ
【生活安全課】 空家空地係長 鈴木 隆亮
【高齢福祉課】 技佐 海老沢 明子
【生涯学習課】 課長 湯澤 康一
課長補佐 堀 晴子
【農政課】 ふるさと農業センター 所長 長谷川 祐紀
主幹 川和 勇一
【防災・危機管理課】 課長補佐 洞内 裕史
主事 大内 竣介
 - (3) その他 特定非営利活動法人ふるさと空き家相談・サポート
特定非営利活動法人ちいきの学校
一般社団法人水戸葵社中
株式会社ナムチェバザール
復興支援プロジェクト水戸
- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」に係る
令和6年度提案事業の公開プレゼンテーション(公開)
全体審議(非公開)
- 6 非公開の理由 (全体審議)
① 公にすることにより, 当該団体の権利, 競争上の地位その他

正当な利益を害するおそれがあるため。

- ② 公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中
立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱を生
じさせるおそれがあるため。

7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 2人

8 会議資料の名称 令和6年度提案事業の概要

9 発言の内容

【公開プレゼンテーション】

委員長	ただ今から、令和6年度水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」のプレゼンテーションを始める。提案のあった5事業について、提案団体と市担当課から、事業の概要、協働による効果、役割などについて発表していただく。
提案団体 生活安全課	〔発表：空き家に関するワンストップ総合相談窓口事業〕
委員	空き家セミナーと外部講師の終活セミナーの内容の違いを伺いたい。意見としては、空き家の相談の入口として市報から3件程度の実績ということだが、費用対効果を考えると、費用の半額を充当して良いのか。他にも優先順位を考えた方が良いのではないか。
提案団体	セミナーの内容については、6,7,8,9月に計画している空き家セミナーは、今年度活動した実績を踏まえ、事例紹介をさせていただく。8月と10月の住まいの終活セミナーは外部の講師を予定している。現在予定している講師は、須藤直美氏であり、令和5年6月に生活安全課が常磐市民センターで実施した事業の講師である。茨城県下妻市在住の一級建築士、古民家鑑定士、伝統再築士、まちづくりプランナーである講師が、住まいの終活についてアドバイスするというものである。年々法律が変わっているので、法改正についても御説明いただきたい。また、費用対効果については、今年度市報に掲載したことで、利用者が安心して電話で窓口に相談してくれていることを実感している。広報の大部分を占めた計画になったが、市報での宣伝は必要であったと感じている。
委員	行政との協働にふさわしい事業である。今年度の予算書では、宣伝について、広報みとでの広告宣伝費25万円という額は、補助の半額程度を使っている。制度上許されているのであろうが、市の補助金を得るために行っているのにも関わらず、半額を市の広報に使っている。実績報告を聞いていると広報みとの効果があったようであり、実績も上がっているが、来年度も市の広報に掲載するのか。
提案団体	市報については、1回の掲載に5万円を要する。せめて5回は掲載したいという思いがあり、有料広告の掲載料として25万円を計上している。茨

	<p>城新聞の広告宣伝費として11万円を計画しているが、市報の方がより効果が見込めれば、市報の掲載を6回から7回に増やしていきたいと思っている。</p>
委員	<p>個人的には市のお金を市に戻すことについて、割り切れないと感じる。市としては、お財布が違うので問題ないということだが、今後、使い方について改めて確認したいと思う。</p>
提案団体 高齢福祉課	<p>〔発表：ドライバーサポートフィットネス「ドラサポ」〕</p>
委員	<p>ドラサポの講座は、市民センターでは開催していないのか。また、令和5年度の開催場所にドラサポで通い続けることができないのか伺いたい。</p>
提案団体	<p>令和5年度の開催場所は市役所、いきいき交流センターあかしあ、下入野健康増進センターの3箇所だけである。令和6年度は、令和5年度の開催場所に通い続けることを可能としていないので、対応策について検討していきたい。</p>
委員	<p>講座に1回参加するだけでは、体力や認知機能を維持することができない。受講後のフォローはどうなっているのか。</p>
提案団体	<p>講座については、7回実施している。初回に体力測定を行い、6回講座に参加してもらう。約2か月かけて体力と認知機能を向上させているので、1回きりではないことを御理解いただきたい。</p>
委員	<p>引き続き令和6年度も継続して受講できるのは良いが、数回の受講だけでは納得できない。重要なのは認知機能よりも体力だと聞いたことがある。ある医学博士は、高齢者が事故を起こすことよりも、若年層が薬の飲み過ぎで事故を起こす方が危険だと言っていた。</p>
提案団体	<p>御意見ありがとうございます。</p>
委員	<p>場所は市民センターと記載があるが、令和6年度は市民センターでの実施を考えているのか。</p>
提案団体	<p>おっしゃるとおり、市民センターを選択肢に含めて検討している。</p>
委員	<p>市民センターは事前に予約しなければ確保することができないので、早めに場所を確保した方が良い。また、参加者には3千円の受講料をとっているのか。</p>
提案団体	<p>1回500円であり、6回の受講で合計3千円の参加料をとっている。</p>
委員	<p>1回の講座の時間はどれくらいか。</p>
提案団体	<p>約1時間である。ストレッチポールやバランスディスクを使用し柔軟体操などを行う。</p>
委員	<p>今年度と来年度の違いや、ブラッシュアップした点があれば伺いたい。</p>

提案団体	内容については、今までの実績を踏まえ継続していきたいと考えている。次回も出たいという参加者からの声があるので、次回も提供できるような体制づくりをしていきたい。
委員	ドラサポのニーズは非常に高いと思うが、受講者は何十人という規模である。今後、地域全体のニーズに応えていくために、何か考えていることはあるか。
提案団体	指導員のスタッフは2名で行っているが、人手が足りず、厳しい部分があるため、スタッフの拡充を考えたい。昨年、岐阜県から活動の視察が入り、情報交換を行った。実際に、岐阜県で同じ事業を開始し、やりとりを続けている。そのように活動が広がっていけば良いと考えている。
委員	ドラサポへの期待は大きいと思う。担当課においても、より多くの方が参加できるようにしていただきたい。
提案団体 生涯学習課	〔発表：ふるさと教育「御老公と行く！私たちの水戸」〕
委員	実施スケジュールについて、1年目は1か月に1回の配信とあるが、配信は1回あたり何分を予定しているのか。小学校やPTA、こども会との連携について、小学校は何校回る予定であるか。また、水戸市のマスコットキャラクターみとちゃんとのコラボは考えているのか伺いたい。
提案団体	動画は1回3分を基準に考えている。スタート時の配信は月1回を予定しており、最終的には月2回を目指していきたい。小学校については、学区単位で1つの枠組みをつくり、回ることを検討している。既に三の丸では、地域にあって活用できるものを調べていただいている。平日は学校があり撮影できないため、春休みや夏休みを利用して制作し、配信する動画をストックしていきたい。また、みとちゃんとのコラボは是非、水戸市の御協力を得て、共演をお願いしたいと思っている。
委員	タイムスリップした水戸黄門の設定だが、歴史が重要であると思う。水戸黄門がこどもたちと一緒にまちを巡り、歴史と今をつないだものを作るのか。また、令和6年4月から動画作成開始とあるが、制作前のこどもたちへの疑問はいつから投げかけるのか伺いたい。
提案団体	台本や脚本、演出について、ある程度のシナリオは作成しており、関係各所に確認をとりながら、歴史に基づいた演出をしたい。最初の動画は、学区単位で作るには時間がかかるので、劇団に所属する子役を起用し完成させたい。それを基にして、他の学校の撮影を開始する予定である。下水道など住民サービスも取り上げることができれば、面白いと思う。こどもたちの発想を尊重していきたい。
委員	こどもたちも水戸光圈を知っている子が多いと思う。収支計画書について、出演者に謝礼金を払うことはおかしいと感じる。交通費なら納得できるが、謝礼金はいかがなものか。
提案団体	動画の出演料ではなく、保護者の交通費の実費相当である。

提案団体 農政課	[発表：キッズトレイルランニング大会]
委員	2年連続で参加したが、今年度は時間の取り方が上手であり、走り終えた子どもたちは、工作体験で楽しそうにしていたので良かった。全体の参加者の人数や、去年からの継続参加者及び新規参加者の内訳を教えてください。
提案団体	詳しい数字のデータは持参していないため回答できかねるが、大会終了後のアンケート結果によると、エントリーは約110名であった。今年度の開催時、インフルエンザが流行しており、15名から20名ほどがキャンセルとなったため、95名で開催した。そのうち約3割が前回からの参加者であった。
委員	つまり、7割相当の前回参加者は大会に飽きてしまい、興味を示さなかったということなのか。楽しかったらまた次年度も参加するのではないのか。6年生は卒業してしまうので参加できないが、5年生までは参加してくれるのではないのか。また次も参加してみたいなど、わくわくするような内容にしなければ、1回きりで終わってしまうことはもったいないので魅力度を高めていただきたい。
提案団体	高学年になるほど、勉強が忙しい等の理由により、参加率は低くなる傾向にある。魅力については、大会の趣旨が伝わるように改善していきたい。
委員	収支計画書における印刷製本費に、ホームページ制作費等6万円が計上されているが、ホームページというのは、株式会社ナムチェバザールのホームページとして作成するのに6万円かかるのか、もしくは特設ホームページを作成するのかを伺いたい。また、環境保全マインドという言葉について、みんなで自然の中を走ることは良いことだと思うが、それだけで環境保全マインドと呼べるのか。または、大会後に、森林公園の自然を守るためにはどうしたら良いのかというところまで繋げることができる何かがあるのか伺いたい。
提案団体	ホームページについては、株式会社ナムチェバザールのホームページにリンクを付け、別のホームページを作成した。そのホームページからさらにリンクを付け、大会の申し込みフォームにつながるようにした。環境保全マインドについては、まず、大会をきっかけとして、森林公園を知っていただくところからである。アンケートの結果から、大会を通して、環境の素晴らしさを評価していただいていることが分かる。その自然を大事にする気持ちが芽吹いてくれなければ育てようがないため、芽吹くきっかけにできる催しにしたいと思っている。
委員	令和6年度にわくわくプロジェクトとして採択された場合、最終年度となる。これまでの内容をブラッシュアップし、わくわくプロジェクト終了後にどのように大会を継続するのか、それとも継続しないのか、今後の見通しがあれば教えてください。
提案団体	令和6年度に採択された場合は、大会のスケジュールについて御意見をいただいているので、スムーズに集合できるように改善し、大会の時間が

	<p>読めるように管理したい。また、今年度は、大会以外にも木工体験を提供し、こどもたちに体験してもらったが、初めて実施し、こどもたちの集中する時間に差が生じてしまう等の問題点が見つかった。木工体験だけでなく、森林公園の見所をさらに伝え、お土産を購入できるお店を用意していただくなど、広く公園を見てもらえるような工夫をしたいと考えている。わくわくプロジェクト終了後については、トレイルランニング関係の取引先に打診し、ブースの出店料をいただく方法や、大会の経費削減を行い、継続できるように検討していきたいと思う。</p>
<p>提案団体 防災・危機管理課</p>	<p>[発表：ひごろ防災子ども食堂とひごろ防災啓発活動]</p>
<p>委員</p>	<p>前年度までわくわくプロジェクトで実施したHappyリレーいろいろの事業と関連性があると思うが、これだけ多くの活動を行うことが可能なのか疑問である。もう少し内容を狭めても良いのではないか。</p>
<p>提案団体</p>	<p>いろいろなやりたいことが詰まった提案書となっているので、こんなにたくさんの方ができるのかという御指摘はあるかと思うが、我々の思いを乗せたように汲んでいただきたい。Happyリレーいろいろの継続事業ではなく、新規の事業として提出した内容である。収支計画書のとおり、最低限の水戸市からの助成で活動を広めていきたい。Happyリレーいろいろが実施している千波湖でのこども食堂は継続事業であるが、小さいこどもから障害者まで集まる憩いの場となっているので、その場所を利用し、いろいろな人の手を借りて防災の啓発活動を行いたい。わくわくプロジェクトとして採択された場合は、手広くやるのではなく、一つ一つ事業計画を立て直し、取り組みたい。</p>
<p>委員</p>	<p>思いの丈は伝わるプロジェクトだと思うが、今年の1月1日に設立し、会員は30人の状況で、この企画を練るにあたり、実行性を見ながら、次のタイミングで提案する余裕はなかったのか。Happyリレーいろいろの思いが計画に入り込んでいるように感じる。タイトルの防災に絞って活動していく事業内容であれば分かりやすいが、梅まつりの観光案内や、水戸観光コンベンション協会青年部と連携し若い世代とつながることなどが盛り込まれているので、活動の整理をした方が良い。思いは伝わるが、設立した日にちと中身の内容が一致しないように思うので、実行性が不安である。</p>
<p>提案団体</p>	<p>プロジェクトメンバーの思いが詰まっており、提案書は読みにくい部分があったかと思うが、プレゼンをするにあたり、我々はプロではなく、現場でのプレゼン能力がなかったことを御指摘のとおり受け止めたい。団体名としては復興支援プロジェクトとして立ち上げている。メンバーと話し合い、一番は石川県の義援金の支援を行い、その支援からつながる未来のこどもたちの防災意識を高めていきたい。これがプロジェクトの主の目的である。設立から期日が短いという御指摘について、Happyリレーいろいろの団体メンバーが主であるが、令和6年能登半島地震の支援に賛同して集まったメンバーで構成している。私自身もHappyリレーいろいろに今まで所属しておらず、大学卒業後、幼児教育に携わってきた。代表を含め、震災からの復興支援や防災意識を高めるという思いでまとまったメンバーである。企画書に不備があったと思うが、確実な事業にできるように、もう一度</p>

委員	<p>メンバーで企画を練り直すことも含めて活動していきたい。</p> <p>実施スケジュールについて、活動は土日、祝日、春休み、夏休み、冬休みと分かれています。幅広く取り組みたいという意向は伝わるが、具体的にいつ何をやるという予定が定まっているのか、直近の予定があれば伺いたい。</p>
提案団体	<p>1月1日から義援金募集を行っている。先日100万円の義援金を水戸市長に報告し、1月半ばから、毎日、千波湖で活動している。実際の活動は動き出している状況であり、3連休や長期休みを利用し、千波湖を拠点として啓発活動をしたい。多くの方に参加していただきたいと思っているので、実際は24回以上となっているが、収支計画書としては24回と記載させていただいている。</p>

上記に相違ないことを確認する。

委 員

委 員